

旧広島陸軍被服支廠建物安全性等調査の結果について

平成 30 年 1 月 19 日

財 産 管 理 課

1 要旨

旧広島陸軍被服支廠の保存・利活用等について、幅広く検討するため、爆心地から最も近い 1 号館の耐震性能等を調査したので、報告する。

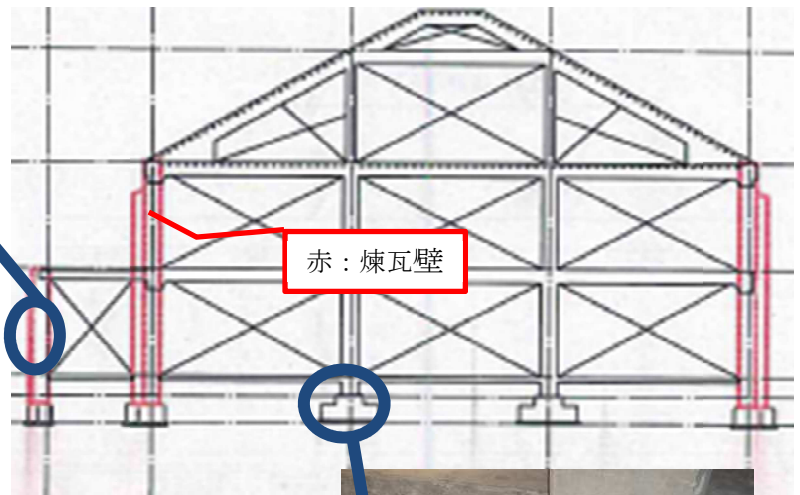
2 調査結果等

(1) 調査の概要

鉄筋探査や煉瓦及びコンクリートのコアを採取しての劣化度等の調査、基礎の状態確認等を行い、耐震性能を調査した後、その結果を踏まえ、改修パターン毎の改修費の試算を行った。



(地図出典：広島市平面図)



【参考】～旧広島陸軍被服支廠

竣工：1913年（大正2年）

構造：組積造と鉄筋コンクリート造，3階建

延床面積：5578.66 m²

(2) 耐震性能

本件建物は、震度6強規模の大地震が発生すれば、その震動で倒壊等する危険性が高い。

〔主な要因〕

- 1つ1つの部屋が大きく（664㎡）、間仕切り壁が少ない。
- 埋め立てた軟弱地盤に建物が建っており、既に不同沈下している。

(3) 改修パターン別の概算改修費（1棟）

パターン① 劣化防止に必要な瓦屋根、防水設備等の補修費用：約4億円	
パターン② 1棟の北側1/3を耐震改修し、改修部分の1階だけ活用する場合： 約12億円	
パターン③ 1棟全体を耐震改修するが、北側1/3の1階だけ活用する場合： 約23億円	
パターン④ 1棟全体を耐震改修し、博物館等として使用する場合：約33億円 (平成8年試算：36億円)	

3 今後の進め方(案)

今回の調査結果に基づき、劣化防止に向けた取組を進めていくことを基本として、関係者との調整や、調整状況を踏まえた建物の詳細調査など、引き続き、調査・検討を行う。

なお、見学を受け入れる場合は、これまで以上に安全性に配慮して行う。